

事業コード	H19-建-継-09		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築事業(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主)秋田御所野雄和線		担当課長名	加藤 修平
箇所名	秋田市 御所野		担当者名	伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H17 ~ H25 (9年)		総事業費	29.0億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長 L=2,055m、幅員 W=7.0(11.5)m						
事業の立案に至る背景	<p>主要地方道秋田御所野雄和線は、秋田市仁井田の国道13号を起点とし、秋田新都市中心部を貫き秋田空港を経由して、秋田市雄和の国道341号に至る幹線道路であり、県都秋田市中心部から秋田空港へのアクセス道路として重要な路線である。</p> <p>しかし、当該区間は急勾配かつ幅員狭小であり、さらに踏切が存在するなど交通の隘路となっている。</p> <p>このため、高速交通拠点である空港、高速ICへのアクセス向上を図り、経済・産業活動の活性化を図るものである。</p>						
事業目的	<p>交通隘路区間の解消(幅員狭小、急勾配)</p> <p>物流の効率化の支援(秋田空港IC)</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	2,900,000	2,900,000	0			
	経費内訳	工事費	0	0	0		
		用補費	0	0	0		
		その他	2,900,000	2,900,000	0		
	財源内訳	国庫補助	1,595,000	1,595,000	0		
		県債	1,239,000	1,239,000	0		
その他		0	0	0			
一般財源		66,000	66,000	0			
事業内容	改良工、橋梁工、舗装工	改良工、橋梁工、舗装工					
事業の進捗状況	現在改良工及び橋梁工を推進しており、平成19年度末には事業の進捗が約14%となる見込みである。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業。						
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年1月1日に秋田市・河辺町・雄和町が合併し、秋田市となった。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県道改良率					
	指標式	改良率(改良済延長/実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	68.8 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	69.5 %					
達成率 b/a	101.0 %		把握の時期	平成19年 8 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区間は線形不良(最小曲線半径80m)で縦断勾配もi=5%の区間があり、道路構造上の欠陥箇所が4箇所存在する。 狭隘なことから、旅行速度が18.6km/hと低く、円滑な交通が確保されていない。	12点
緊 急 性	本道路は日本海沿岸東北自動車道「秋田空港IC」へのアクセス道路であり、市町村合併支援道路としての機能も有する。	10点
有 効 性	当該路線は秋田市内からの秋田空港へのアクセス道路であり、さらには秋田空港ICへのアクセス道路でもあるため整備後の有効性は高い。	30点
効 率 性	事業の費用便益比は6.50であり効率性は高い。 計画交通量も8,000台/日となっている。	20点
熟 度	現在改良工及び橋梁工を推進しており、平成19年度末には事業の進捗が約14%となる見込みである。	13点
判 定	ランク () 特に「有効性」「効率性」の項目で評価点が高く、秋田空港ICや秋田空港へのアクセス道路であり、整備後の有効性は高いことから引き続き実施すべきである。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H19-建-継-09)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (秋田市 御所野)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	8	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	6		
	・最小半径 < 100m	1箇所	4		
	・最急勾配 > 5%	0箇所以上	0		
	・冬期堆雪巾なし				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7	4	
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6		
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	2			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	12	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	4	4	
	・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	3	
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	3	3	
		増加していない	0		
特有の課題の有無	あり	5	0		
・老朽橋、災害危険箇所、 ・冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	10	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	30	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		0.5以上~1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満	4		
		300台/日以上~500台日/未満	3		
		300台/日未満	0		
	コスト縮減	あり	5	5	
		なし	0		
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	5	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
		未着手	0		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	8	
	5割以上完了	8			
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
計			20	13	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		